

2018年12月20日(木)

U小学校6年生

授業者:M先生

【授業の展開】

1. Greeting

2. Small Talk

先生の日を次のように話す。

T: I get up at 5:30. I go to school at 7:30...

T: 何が聞き取れた?

S: Go to bed, get up, seven thirty. ...

T: 前回に比べてレベルアップしています。気づきましたか?

S: 「分」がついています。

T: そうですね。今日は何時, 「何分」というところまでやりましょう。

3. Today's Goal

「いろいろな動作や時刻の言い方になれ, たずねてみよう。」

(ゴールを書いたカードを確認)

4. Let's play 1

・1~60まで数える練習。「5の倍数」の時は発音せずに手をたたく。

5, 10, 15, 20, 25, 30, 35, ...

・前列左端の児童から順にボールを渡しながらか数字を数えていく。5の倍数になったら手をたたく。

・動作を表す動詞を復習(ジェスチャーを付ける)

T: I get up. I eat breakfast, I go to school, I study at school, I eat lunch, I go home, I play basketball, I study at home, I play soccer, I play the piano, I swim, I clean my classroom, I take a bath, I eat dinner, I watch TV. I go to bed.

5. Memory game

・絵カードを用意させる。指導者の英語を聞いて, それに合う絵カードをワークシートに貼っていく。時刻は書き込んでいく。

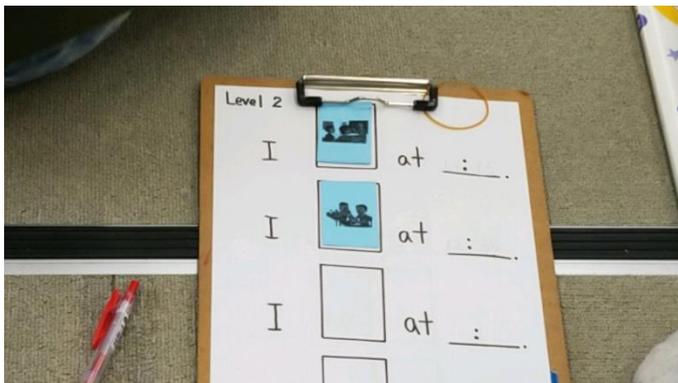
T: I go to school at 7:00. I play basketball at 10:00. I clean my classroom at 1:00.

I eat dinner at 8:00.

・できた児童に前に出させてホワイトボードに絵をはり, 時間を書き込ませる。



T: I study at school at 11:15. I eat lunch at 12:35. I play the piano at 6:30. I take a bath at 8:45.



Fifteen, fifty など聞き取りにくいところは随時指導する。

6. Let's listen 2

T: This is Sakura. This is Sakura's life. What time Sakura get up? What time Sakura go to school. Please listen.

- ・電子教材を聞く（1回目）
- ・電子教材（口形図）（2回目）

T:（教師が再度英語で話す）I get up at 6:30.（thirty, thirteen を比較しながら繰り返す）

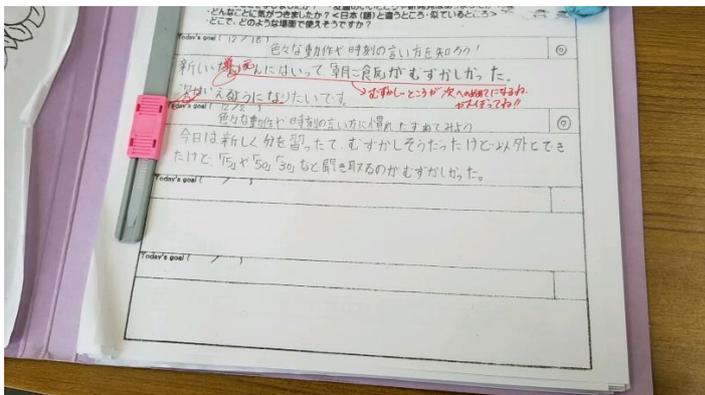
I go to school at 7:50.（fifty, fifteen を比較しながら繰り返す）

- ・児童はテキストに書き込んでいく。

7. Let's chant

“What time do you get up?”

8. Reflection



児童の振り返り：今日は新しく分を習った。むずかしそうだったけど意外とできた。「15」や「50」「30」など聞き取るのがむずかしかった。

【授業を参観して】

○授業は基本的に英語で進められていました。聞きやすい英語で、児童の状況をみながら話すスピードの調整も行っていました。児童もしっかりと指導者の英語に耳を傾けていました。小学校の英語の授業を参観するたびに、英語のインプットが少ないように感じていましたが、この授業では、英語が classroom discourse(授業を進めるための英語)としての役割をしっかりと果たしていました。このような質の高い英語ならば、もっと、もっと指導者の英語を児童に聞かせる場面があってもよいのではないかと思いました。

○指導者が数字(分)の英語の言い方を教えることに集中しすぎたように感じました。「15や50」、「14や40」などの音声上の違いを聞き取らせる(または発話させる)ことに力を注ぎ過ぎたために、逆に意味のほうへ児童の注意が向かなくなつたようにも感じられました。例えば指導者が I get up at 5:15. と発話した時に、児童は「15分なのか50分なのか」を聞き取ることに集中し、「5時15分に起きることは自分と比べて早起きだ」というような意味には向いていないように感じました。これは中学校の文法指導においても起こることです。三人称単数の場合は動詞にsが付くということに集中すると Takeo likes basketball. のsに注意が行き過ぎて好きなものは何なのかに注意が向かなくなります。本来は何が好きかが重要であるはずですが。音声上の注意点や文法上の注意点に集中させると意味に注意が向かなくなることはこれまでの英語の授業でも指摘されていたことです。文法と意味が trade-off(一方を追求すれば他方を犠牲にせざるを得なくなる)の関係になってしまうことが課題となっていました。今回も「音声と発話の意味」が trade-off の関係になっていたように思います。例えば、I study at school at 11:15. という発話がありましたが、「11時15分に学校で勉強する」ということはどういう意味なのでしょう。15分ということをお伝えしたい

がために、この文全体の英語の意味が犠牲になっていると言えます。

○サクラの1日についての「聞き取り」においても6:30や7:50が出てきており、30や50を聞き取らせることを目標に音声教材が作られています。悪いことではありませんが、このようなことを続けると言葉にとっても最も大切とされている「意味=メッセージ」が犠牲になってしまいます。サクラの1日を聞かせたあとは、校長先生の一日（例えば夜遅く帰宅する。朝、早く学校に来ている）を聞かせて、時刻を聞き取ることによって、校長先生の仕事について知るようになることがあってもよいのではないかと思います。それが、文法（音声も含め）と意味のバランスをとるということに繋がっていくことになります。

○英語の教科化が意識され、ターゲットとなる表現が教材で示されると、指導者はどうしてもそれを教えてしまうことに注意が向いてしまいます。しかし、大切なことは英語でコミュニケーションを体験することであることを忘れないようにしたいと思います。本時の授業においても、教師と児童、または児童同士がお互いの生活を聞き合ってお互いのことをもっとよく知る機会になればよかったですと思います。言語活動（コミュニケーション活動）を優先させて15と50の聞き取りが難しいということを経験させたあとに、聞き取りのさらなるドリルをもってくるほうがよいと思います。ドリルが先になると、どうしても意味が犠牲になってしまいます。それを逆にするとバランスが取れるのではないかというのが私の考えです。しかし、これは簡単なことではありません。なぜなら「練習していないと、できないのではないか」というのが私たちに刷り込まれた考え方です。確かに、「やりたくないこと」は練習させないとできません。しかし、「本当に伝えたい、聞きたい」と思った瞬間、練習を忘れて活動するようになるのではないかとも思います。子どもの頃の「草野球」がそうでした。英語の授業では難しいことかもしれませんが、私はそれに挑戦したいと思います。